

第48回句会 「薄氷」「梅」または自由

7点句

一步先うごめく無数の梅の枝 惑星

特選 鮭航太・トホ・井沢軽

並選 一天

特選

梅の景をこのような不気味な生物として
とらえている所が普通じゃないと思った。

一步先というのも人間と生物の境界線が感
じられ良い表現。(鮭航太)

たまらなく春の気配を感じます、梅林に吹
く風で、香もいっぱい。(トホ)

梅に対して枝に注目してるがよかった。
切れ字なしで、息継ぎなく一気に詠みき
つていて、春の芽吹きを感じた。(井沢軽)

並選

今回選句してて気づいたのは「気配」を
選んでいるということ。これも気配。植物
も常に動いている。その気配。恐ろしくも
ある。(一天)

5点句

枯れ草を踏みつづけては冬終わる

特選 一天・惑星

並選 日曜

特選

春の気配を感じながら、でも枯れ草を踏
み続けた日々を思う。まるで今年の冬の緊
急事態宣言のように。早く終わってほしい
ですね。(一天)

枯れて踏まれてそれでも春は来る。たく
ましい生命の息吹の讃歌に聞こえました。(日曜)

梅林や五万の蕾の息ひそめ 惑星

梅の蕾はなぜ息を潜めているのだろうか。
今年は大寒波で、開花が遅れているのだらう

特選 琢磨

並選 鮭航太・トホ・光則

特選

梅の蕾はなぜ息を潜めているのだろうか。
今年は大寒波で、開花が遅れているのだらう

か。いや、例年ほど梅見が盛り上がりぬため
に梅も姿を隠してしまったのかもしれない。

梅の鮮やかさとコロナ禍の陰鬱さの対比だ
とするなら、この句は、普段ならいたはずの
人間を詠むのではなく、梅林の方に眼が向け
られている点が面白いと思った。(琢磨)

並選

特選

これから芽吹いてくる命が無数にあると
いうのは、とにかくあがる。(鮭航太)

5万もの蕾、春へのわくわくがあふれてま
す。(トホ)

五万、て素敵な盛り方ですね (光則)

うすらいを除けて歯に沁む水キムチ 子牛

特選 ナッツ・熊猫山

並選 茜

特選

美味しそう！ 食べたい！ ぜったいシャ
キシャキしてる。薄い氷を割ってひよいと
味見してるのですかね。水キムチって外に
おいとくのかな。歯にキンとくるのはやだ
けど、白菜や大根の食感でジワッと冷たい
なんて。美味しそうすぎます。(ナッツ)

妙にリアリティがある句で、何に惹かれたのかは自分でも分からないが特選とした。
(熊猫山)

並選

しみるよねー

(茜)

4点句

梅が香に男の子宮動きけり 井沢軽

特選 茜

並選 琢磨・ナツツ

予選 日曜

特選

とにかく詳しい話を聞きたい。
(茜)

並選

「男の子宮」なのか、「男の子(宮)動く」なのか。不思議。この句の中で何が起きているのか気になった。
(琢磨)

友だちが男の人にも生理があるとゆっていた。だからイライラしてる男の人をみると「いま生理なんだな」と思った。その子宮が反応する梅の香り。ガーリーですね！でも梅の香りってちょっとシブイ香りなのでやはりエロティックですね。夜の梅かな、

昼の梅かな。
(ナツツ)

予選

男の子宮、すごいなー。梅の香は時として自然の摂理をも狂わせるのか。
(日曜)

紅椿秘密守れぬ者がいて 鮭航太

特選 夜桃

並選 ナツツ・井沢軽

特選

「家に植えている花がぼつり咲くと家の者が誰か浮気をしている」のだとかいう迷信は外国にもあるようです。無言でも平穏な日々でも、心の中に咲いた情熱はどこからか隠しきれず咲くのでしょうか？
(夜桃)

並選

紅い椿の紅って、嘘みたいに紅いなあ。紙でできてるみたい。そのなかに秘密を守れないヤツがいるのも納得がいく。そいつは仲間はずれにされて、ぼつと墜ちていった。女の園がうかびました。全寮制の寄宿学校みたい。ちょっとこわいですね。
(ナツツ)

なんだか怖い句。処刑されたか。
(井沢軽)

薄氷や前をゆく子の脚止まる 琢磨

並選 一天・夜桃・光則・惑星

並選

この子は何を感じてとまったのだろうか。氷を割りたくなかったのかもしれないが、何かの気配をかんじたのかもしれない。
(一天)

(一天)

幼児の軽い体重で割れる薄氷のはかさ。一瞬の緊張感がある。
(夜桃)

そつと踏んだり思い切り踏みつけたり、いずれにしろ子どもの権利ですね
(光則)

3点句

亡き人の気配香るや梅の庭 子牛

並選 一天・熊猫山・光則

予選 日曜

並選

亡き人の丹精した庭だろうか。道真の時代から丹精した梅は飼い主を忘れないのだろうか？ 人の気配が漂う不思議。
(一天)

こういう時確かにありますね、共感しました。
(熊猫山)

香る、の使い方が洒落てますね
(光則)

唐突に背中叩かれ夜の梅 鮭航太

並選 一天・夜桃・惑星

並選

このシーンはどきっとしますね。掘り返ると誰もいなかったりするんだろな。内田百閒みたいだ。このあと耳元で食べ物の話などされると怖い。「そういえばあなた様は熟した桃がすきでしたわね・・・」(一天) 冬から春になるこの頃はとにかくはつきりしないぼんやりしていてこころも薄曇り。突然に叩かれると驚く。そして突然に叩かれない。

(夜桃)

薄氷を踏み捨ててビリージーン聴く

光則

特選 日曜
並選 熊猫山

特選

まさかビリージーンが出てくるとは。この柔軟で鮮やかな感性が好きです。やはり薄氷を踏み捨てる時はムーンウォークしたのかしら。

(日曜)

並選

リズムが良い。

氷が割れそうで面白い。(熊猫山)

2点句

うすらいの溶けるがごとく光消ゆ

子牛

並選 琢磨・トホ
予選 日曜

並選

透明感と儂さが、文字から伝わりました

(トホ)

予選

哀しみのなかに美しさを湛えた句。光消ゆ、光はなんの光なんだろう。存在や生命のメタファーなのかも。

(日曜)

皿割れる音響きけり梅の花 鮭航太

並選 井沢軽・惑星

並選

春の訪れは、静寂を断つ音がトリガーになっている。

(井沢軽)

懐かしき屋根のトタンに梅の跡 子牛

並選 ナッツ・惑星
予選 日曜

並選

どんな梅の跡なんだろうと思いました。子どもるとき住んでた家はおっきい梅の木があつてそれがお隣の家になんかしてたのかな、など思い描きました。トタン屋根の響きも懐かしく青いろが浮かびました。

(ナッツ)

予選

トタンにどのように梅の跡が残ったのか気になる

(日曜)

薄氷の筋走る底に草1本 惑星

並選 鮭航太・ナッツ
予選 日曜

並選

草二本だけ生えてある 時間
という富沢赤黄男の名句を思い出す。

水面が少し氷っていて、その下に一本の水草がぼんやり見える。見たことありそうで見ることない景色。というより見ようとなしなと見えない景色。

(鮭航太)

ひよろーっといする枯れ草が、ただいのがうかびました。冷たく濃いグレーの世界

に無言でいる枯れ草、ちょっとストイックでかっこいい。ひよろひよろだけど腹を決めている。(ナッツ)

予選

氷と草のコーディネートが美しいビジュアル (日曜)

梅三分峻山に積む雪を思う 一天

特選 子牛

特選

梅っこ咲いたけど、まだまだ寒さが降りてくる、お山は雪だっぺ。同じようなことを読んだ句もあるけれど、この句は凛としていて好き。漢字の配分がいい。(子牛)

野良猫は黄金になり梅林 鮭航太

並選 琢磨・夜桃

並選

野良猫、黄金、梅林。これも不思議。この句の中で何が起こっているのか気になった。(琢磨)

春の陽気とまだ肌寒い感じがどちらも伝わってくる。ゴールドと梅のピンクの

組み合わせは意外なカラーリングですよね (夜桃)

薄貼りのキャンディ舌に桜貝 ナッツ

並選 夜桃・茜

並選

舌の赤、キャンディのピンク、春はちかい

(夜桃)

切らないように (茜)

もふもふを着てうすらひを手にすくう 夜桃

並選 子牛・茜

予選 日曜

並選

暖かくして寒いことする。冬の楽しみ。(子牛)

(子牛)

モフモフ (茜)

予選

やっぱりもふもふって言いますよね。うすらひとの対比もよいですね。(日曜)

道場に響く怒号や薄氷 井沢軽

並選 琢磨・子牛

並選

春、本格的な稽古が始まったのね。(子牛)

冬川のむかい側にも住むところ 夜桃

特選 光則

予選 鮭航太

特選

むかい側の人からすればこっちはむかい側だし当然といえば当然の景色ではありますが、それを新鮮な驚きとして際立たせる冬川という言葉の絶対的な距離感に人の営みの力強さを覚え、とても良いと思いました。(光則)

予選

とても過酷な場所という印象。住むところという言い方が他人事のように聞こえる。人間(じゃないかも?)はどこにでも住みます。(鮭航太)

薄氷の反射のやがて柔らかき 井沢軽

並選 トホ・日曜

並選

冬と春の移り変わりのグラデーシヨンの色が見えるようです
(トホ)
反射で溶けた後の状況を表現する鮮やかさたるや。
(日曜)

1点句

山歩きはかどる春の氷かな 琢磨

並選 子牛

並選

暖かくなって足取りも軽くなるウキウキを感じます。
(子牛)

梅が枝は伐らぬ狸の実算用 子牛

並選 熊猫山

並選

皮算用ならぬ実算用に納得
(熊猫山)

黄の靴が踏み割る音や薄氷 一天

並選 井沢軽
予選 日曜

並選

子供の様を靴に持ってきたことで、焦点がはっきりした。
(井沢軽)

予選

子どもが踏むという同じ視点で詠みましたが、黄の靴という表現の鮮やかさにやられました。
(日曜)

佐保姫の部屋で女子会オスタラも ナツツ

並選 井沢軽
予選 琢磨

並選

調べて理解した句。コロナ禍の春っぽさ。
(井沢軽)

予選

日本と西欧の春の女神のランデヴーにくすりときた。
(琢磨)

ぼつり咲く白梅が好き月が好き 惑星

並選 鮭航太
予選 日曜

並選

一人でいるのも好きそうだなと思った。月も季語で季重なりだと思うが、春の月特有の幽玄な感じと白梅の雰囲気は僕も好き
(鮭航太)

予選

音感が心地よい
(日曜)

詩が歌が老梅の枝なりにけり 井沢軽

並選 熊猫山
予選 日曜

並選

確かに「梅」は歌や詩に読まれています、それが枝になるという表現が素敵。
若い梅ではなく老梅というのも更に良い。
(熊猫山)

予選

たしかにいろんな詩・歌を吸い込んでいく感じがする。梅って風流が似合う、桜とはちょっと違いますね。
(日曜)

梅のころ握った飯を数えたる 琢磨

並選 光則

並選

いつもおにぎりありがとうございます

(光則)

冬おわり犬なまぐさく川光る 夜桃

並選 日曜

並選

犬たしかになまぐさいですね。その着目点に強く共感。川光るとの対比も効いています。

(日曜)

薄氷を透かしてみたる太陽光 一天

並選 トホ

予選 日曜

並選

氷と太陽の対比が、きらきら輝いています

(トホ)

予選

すなお、やりたくなる気持ちに共感(日曜)

春一番黙り野良猫石となる 熊猫山

並選 日曜

並選

風の強さよりも暖かさを選びまったりする猫ののどかな姿がすんなり脳内で映像化されました

(日曜)

肩につく牡丹雪です私たち ナッツ

並選 鮭航太

並選

なんだか可愛いですね。一つ一つの牡丹雪には目も口もついている。牡丹雪で有名な地域のゆるキャラに推薦

(鮭航太)

なみなみの焼酎消えて薄氷 トホ

並選 子牛

並選

氷には酒だ

(子牛)

0 点句

松と竹唯一花咲く梅恋し トホ

梅に鼻近づける彼女の横顔 日曜

薄氷透かす景色は丸窓か 茜

薄氷の溶けてスズメが水を浴び 日曜

梅の香に寄る虫どもの羽音かな 一天

愛猫と共に誘われ白椿 熊猫山

しら梅や母より届く便りあり 琢磨

予選 日曜

幾重にも薄氷の気圧配置かな 光則

白梅や下唇の黒き酒 井沢軽

起き抜けにきみの信号宙の梅 ナッツ

予選 日曜・井沢軽

予選

きみの信号、なんだろう。とても気になる。答えを聞いてみたい。(日曜)

よくわからない句だけど、信号とは着信のことかな？ スマホの向こうに見えたのが梅かな？ (井沢軽)

薄氷や手袋超えてじんじんと 日曜

薄水の自肅ようせい自肅せず 熊猫山

塵べらとともに浮かぶか薄水 光則

梅薫る1号線の排気音 日曜

道真忌妖しい香りたちこめり 琢磨

被はぎする日向ぼこりの羅生門 ナツ

予選 日曜

予選

被はぎとはなんぞや。選ぼうかギリギリ
まで悩んでいたが、わからなかったためあ
きらめた。日向ぼこり、羅生門の言葉の並
び、なんか好きです。(日曜)

掌に儂く溶けて薄水 茜

予選 日曜

予選

とてもすなおに入ってくる句 (日曜)

不条理と非合理でなる薄水 鮭航太

薄水をパキパキ踏みし通学路 日曜

凜とした友の名に梅かけがえなし

トホ

薄水手に持ちて立つ女童や 一天

わがままを言う老婆見下ろす白梅や 惑星

惑星

稚児の手に寄りて離れる薄水 光則

予選 日曜

予選

手に寄って離れる、これは水の視点なの
か、親の動作と視点なのか。前者と捉え擬

人的なおもしろさに惹かれました。(日曜)

上七軒張り手くらって仰ぐ梅 茜

愛捧ぐつめたい夜や冬いちご 夜桃

薄水を跨いで洗濯物を干す 光則

総評

梅、薄水と俳句らしい題を提案したんだけ
ど、

実感じゃなく空想で描くとよくある表現
になりがちなのかも。今はお題は自分が出
しているんだけど、お題の提案も受け付け
てます。月末までに送ってくれば、採用
しますよ。(鮭航太)